

大阪 A・P・S コンソーシアム 介護スキルラボ
介護分野における技能実習生に対するベトナム講師派遣報告書

派遣期間：令和元年 5 月 1 日(水)～令和元年 6 月 1 日(土)

派遣場所：ベトナム ハノイ ホアンロン人材派遣株式会社 教育訓練第 2 センターC2

報告日：令和元年 7 月 10 日 (水)

報告者：社会医療法人 愛仁会 岡裕康

1. 目的

- (1) アジア健康構想の一環として、外国人技能実習制度に基づき介護分野における知識・技能などの技術移転及び人材還流。
- (2) ベトナムの歴史、文化、国民性を理解し、2nd phase において日本国内における技能実習生受け入れ機関としての体制を整える。

2. 第 1 期 授業内容及びカリキュラムの展開

【C クラス 11 名】

令和元年 5 月末日現在で C クラス 11 名中、6 名が N3 を取得。N3 未取得の 5 名については、N3 の試験を受験したいが、次回 JLPT 開催が 7 月ということで、既に日本へと出国している可能性がある為、この度は申し込まないとのこと。

※N3 取得者は以下の通り

愛仁会	グエン・ホン・ティ	ダン・ティ・タイン・アン
ペガサス	レー・ホン・ゴック	グエン・ティ・ロアン
生長会	ファム・ティ・ゴック・アイン	ファン・ティ・タム

講義内容については、総合生活支援技術 演習(確認テスト)を 5 日間に渡って展開。前任の講師から引き継ぎ「聴解力」を高める為、講義中の説明や会話については、日本国内における日常会話程度のペースで展開し、専門用語の少ない日常会話程度であれば概ね理解できている印象。テキストについても全てルビが振ってある教材を使用している為、余程難しい内容でなければ、スムーズにリーディング出来ている。しかし、急な質問や予測していなかった内容の問いかけに対しては考える時間も必要となり、“早く答えなければ”との焦りからか品詞の使い方が曖昧になる事も多々あった。また、演習時周囲で見学している者からのアドバイスをベトナム語で話す姿が多くみられた為、実技メインの講義において会話の精度を上げる為にも、2 人 1 組での演習時全ての会話を日本で話すことをルール化するなどし、相互学習の場を設けた。

【Dクラス4名】

令和元年5月末日現在でDクラス4名中、N3を取得者はゼロであるが4名全員がN4を取得しているという状況。ニャンさん、ホアさんについては6月のN3試験を受験する予定との事。第1期A・Bクラスの出国前講習の為、Dクラスのカリキュラムを急遽変更することとなり、総合生活支援技術（確認テスト）体位変換からオムツ交換までを5日間に詰め込む形となったが。小人数のクラスであったことで指導の目は行き届きやすかったことから、滞りなくカリキュラムを終えることができた。また、こちらもCクラスと同様に日本語での会話を徹底するようにし、日本語を発する機会を多く作ることで相互学習の場を設ける事とした。

3. 第1期 修了式について

令和元年5月10日（金）介護スキルラボ302にてC・Dクラスの修了式を開催。当日は午前中にCクラス、午後よりDクラスの修了式となり、各クラス内より各法人から代表1名ずつ「介護スキルラボで学んで印象的だったこと」について発表してもらった。内容は様々であったが、日本に行くことについての決意や前任の講師陣との繋がりを強く感じられる発表に、第2期で生徒達との関わりについて考えさせられた。

※修了証授与後の記念撮影



(Cクラス11名)



(Dクラス4名)

4. 第1期を修了し、見えた今後の課題について

C・Dクラス15名について、ベトナム人実習生の多くに目立つ「～が」「～は」「～を」「いいえ」などの言葉に多い独特なイントネーションを担当期間だけでは訂正しきれず、今後2nd phaseにおいて現場に配属される前に直していく必要がある。また、専門用語と介助時や生活会話レベルで使う言葉の使い分けに曖昧な部分が多いこと。例えば排泄時介助時の「陰部を拭きますね。」「臀部を上げて下さい。」生活レベルの会話においても食器を「下膳しますね。」など、誰に対して使うのが正しい言葉なのかをしっかりと理解してもらう必要がある。

5. 第2期 開講式及びプレ授業について

令和元年5月11日（土）教育訓練第2センターD5にて第2期 開講式を開催。開講式では、各法人の生徒代表者1名ずつに介護スキルラボで学ぶことについての決意表明をしてもらい、日本に行く事についての思いを知る機会となり、この先1か月の講義を担当する講師として、身が引き締まる思いでした。

開講式の後には車椅子や介護練習用人形など、介護用具の紹介、高齢者体験キットを使用するプレ授業を実施。特に高齢者体験キットの使用については、初めて見る道具に皆が興味津々で、体験を終えた生徒からは「歩き辛くて驚いた。」等の感想が聞けた。今後自分自身が支援していく事となる高齢者のことを知り、介護の授業に対する興味を持ってもらう良い機会となった。

（開講式及びプレ授業の様子）



6. 第2期 授業内容及びカリキュラムの展開

※授業内容の詳細については5月度の日報をご参照下さい。

【Aクラス 11名】

Aクラスは11名全員がN4を取得しており、グエン・ホン・ゴックさんのみN3を取得している。

介護の言葉を中心に専門用語を座学形式で3週間に渡って講義。漢字の意味を理解していなければ想像し辛い2字熟語の意味を伝えることに時間を要したが、覚えている単語の数も多く授業自体は比較的スムーズに展開でき、予定よりも早期にカリキュラムを消化できてきていた為、専門性の高い用語や予備知識等も併せて教授した。聴解力について個人差はあるものの通常会話より少しゆっくり話す程度のペースでも理解できていた。1期生と同様に独特なイントネーションも聞かれた為、日本人が使う日本語により近いものへと修正できるように早い段階から注意を促した。

また、職員間で使用する専門用語と、日常会話レベルで使用する言葉の言い換えにも苦勞する部分が多く、新しい言葉を教える際にはどういった場面で、どのようにして使う言葉であるのかを例文と共に説明することで理解を得られるよう工夫した。

【Bクラス 12名→10名】

Bクラスは全員がN4未取得者で構成されており、5月度の時点で2名の辞退者が出た。辞退理由については家族の問題や勉強に対する困難さなどであった。仲間が去った事実に対して、残った実習生の気持ちの変化についてはホアンロン側のフォローも手厚く、比較的高いモチベーションを維持して授業に臨んでくれた。

カリキュラムについてはAクラスと同様に介護の言葉を中心に専門用語を座学形式で3週間に渡って講義し、熟語や専門用語の使い分けについても同じように説明するが、Aクラスに比べて聴解力も劣り記憶された単語数も少ないことから、理解を得るのに時間を要した。カリキュラム自体はAクラスと同じペースで消化したが、教科書にない専門用語や予備知識は追加せず、教科書の内容のみを反復しながら教授することに専念した。聴解力についてもAクラスに比べると全体的に劣り、言語化能力も低い為、リーディングするまでに辿り着いていない印象にあり、総合的にみてもAクラスとの能力差が顕著であった。

7. 第2期、担当期間を終えて

介護スキルラボでの勉強を始めたばかりであるため、今後の成長が期待されるタイミングではあるが、3週間の担当期間中だけで見ても個々の能力差は顕著であった。今後技術面での講義に入ると、特に理解力の差は課題となる為、通訳を介してゆっくり反復しながら展開していく必要があると考える。

また、カリキュラムの内容についても理解度に合わせて展開する必要があり、その点も含めて講師間の連携がとても重要であると感じた。

(授業風景と集合写真)



(Aクラス 11名)



(Bクラス 10名)

8. ベトナムでの生活について

この度、渡越5日目に酷い下痢と腹痛に見舞われ、異国の地における体調不良がどれだけ不安で精神的なダメージが大きいのかを実感した。症状は軽度であった為、予定通りカリキュラムを展開できたが、今後派遣される講師にも同じリスクが伴っていることを考えると派遣講師の代役設置の対応は勿論のこと、現地でサポートして下さる坪忠典氏の不在時や対応困難時における医療機関の受診方法など、万が一に備えた対応方法を考えておく必要性を強く感じた。どれだけ予防していても食中毒、水あたりは避けることはできないことから、まずは“おかしい”と感じたら早期受診、症状の重症化や長期化を避けることも現地派遣講師として必要な判断であると言う事を実感した。

ベトナムでの実生活から、異国の地で生活することに対する不安や不便さを体感できたことは、今後 2nd phase において日本国内で生活する実習生達の気持ちを知る上で貴重な体験であった。技能実習指導員としては勿論のこと、生活指導員の役割がいかに大きなものであるのかを実感する良い機会となりました。

9. 最後に

今回、第1期の最後と第2期の始めを担当し、修了式や開講式などの貴重な機会を沢山経験させていただきました。総勢36名の生徒を受け持ち、人数の多さや担当期間の短さに戸惑いもありましたが、無事派遣期間を終えることができたのも、現地ベトナムにおいて沢山の温かなご支援をいただいた坪忠典氏と御家族、遠くは日本より日々サポートして下さった長尾部長をはじめとする大阪 A・P・S コンソーシアムの皆様、派遣期間中に現場施設を支えて下さった施設職員の皆様お力添えあつての事と感謝しております。貴重な機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

